土佐日記　門出　定期テスト過去問演習

第三問　次の文章を読んで後の問に答えよ。

男もすAなる日記といふものを、女もしてIみむとて、するBなり。

それの年の、十二月の二十日あまり一日の日の①戌の時に、門出す。そのよし、いささかにものに書きつく。

②ある人、県の四年五年果てて、③例の事どもみなし終へて、解由など取りて、住む館より出でて、船に乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知らCぬ、送りす。④年ごろよく比べつる人々なむ、別れ難く思ひて、⑤日しきりにとかくしつつ、ののしるうちに夜更けDぬ。

二十二日に、和泉国までと、Iを平らかに願立つ。藤原のときざね、船路なれど馬のはなむけす。上中下、酔ひ飽きて、いとあやしく、⑥潮海のほとりにてあざれ合へり。

問一　波線部の漢字の読みを現代仮名遣いで記せ。また、二月の異名を漢字で記せ。

問二　二重傍線部線部Ⅰ・Ⅱを例に倣って文法的に説明せよ。（例：ハ行四段活用動詞「言ふ」終止形）

問三　点線部A・Bは何か、後の選択肢ア～エから選べ。また、次の①～④の「なり」「なる」は何か、それぞれア～エから選べ。

ア　断定の助動詞「なり」　イ　推定・伝聞の助動詞「なり」　ウ　ラ行四段活用動詞連用形　エ　ナリ活用形容動詞の活用語尾

①　秋の野に人まつ虫の声すなりわれかと行きていざとぶらはむ

②　年返りぬれど、世の中、今めかしきことなくしづかなり。

③　月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。

④　三十日あまり九日になりにけり。

問四　点線部C・Dを例に倣って文法的に説明せよ。（例：過去の助動詞「き」未然形）

問五　傍線部①「戌の時」とは今の何時ごろか。

問六　傍線部②「ある人」とは誰のことか、漢字で記せ。

問七　傍線部③の現代語訳として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　慣例となっている事務の引き継ぎなど　イ　前例になるようないろいろなこと　ウ　暗黙のうちに了解していたことなど

エ　いつもとは異なる処理をすべきこと　オ　いつものように処理をしたけれども

問八　傍線部④・⑤を現代語訳せよ。

問九　傍線部⑥の表現上の説明として適当なものを次の中から選べ。

ア　「あざれ」と「あへり」は、「あ」の音の繰り返しを楽しむ反語表現。

イ　潮海に縁のある語である「あざる」を用いて和歌的情緒を取り入れた表現。

ウ　「あざる」は、朝と猿にまつわる故事成語「朝三暮四」を引用した諧謔表現。

エ　「あざる」を二つの意味に捉える、言葉遊びを用いたしゃれた表現。

問十　冒頭で「男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。」述べた作者の意図として適当なものを、次の中から選べ。

ア　漢文で書くことは男性にしかできないことだったので、仮名の日記を書くのは自分が女性だからということを強調した。

イ　当時、一般に日記は女性がつけるものとされていなかったので、女性が日記を書くということを強調した。

ウ　自分の感情を自由に表現するには仮名の方が適していると考え、女性の立場に立とうとした。

エ　世の女性たちに日記をつけることを勧めたいという気持ちがあったため、女性の立場に立とうとした。

※文法的説明は、傍線部の要素が一つ抜けるにつき、㊀

第三問 ㉕

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十
しわす ①	I	A	C	寡用(数多も可)	紀貫之	ア ①	④	エ ①	ウ ①
異名	マ行上一段活用動詞「見る」未然形	イ ①	打消の助動詞「ず」連体形	午後八時頃	漢字ミス不可		数年来とても親しく交際してきた人々		
如月 ①	②	B	②	十九～二十時頃・子時も可					
		ア ①		①					
		①							
		イ ①							
		②							
	II	D					⑤		
	ナリ活用形容動詞「平らかなり」連用形 ②	エ ①	完了の助動詞「ぬ」終止形 ②				一日中あれこれしては、大声で騒いでいるうちに		
		③					反復のニュアンス		
		ア ①							
		④							
		ウ ①							
							傍線部の要素が一つ抜けるにつき、㊀ ②		